

★★

巻頭言 勝池レポート アジア資産運用アドバイザー 勝池和夫

「資産運動の時代」

★★

「貯蓄から資産運用へ」は、まだ抵抗があるスローガンです。「資産運用」という響きは素人には馴染みにくく、少し柔らかく「資産形成」としても近寄り難いのは一緒です。私はこの資産運用を資産運動と身近に捉え直し、人生をより健康で過ごすための「資産運動3点セット」の1つとしてアドバイスしています。つまり、頭の運動、身体の運動、お金の運動です。

「運動」という響きは前向きで、クイズなどの「脳トレ」やスクワットなどの「筋トレ」は、大切な資産である頭と身体の運動として多くの方が日常生活に取入れています。ところがお金という資産になると、その多くが殆ど金利の付かない口座に引き籠っています。運動不足で不健康もいいところですね。

「運動」の英語は ” Exercise” と言い、元々は「家畜を小屋から外に出して働かせる」という意味でした。今こそ私たちは、「貯蓄（お金）」も「外に出して働かせる」資産運動の時代に入っています。

インドには、2桁の掛け算を小学生でもすぐに計算できるほど、その多様性を背景に頭の運動環境は整っています。そこにAI分野でのリスクリングが加わり、インドの頭脳は更に運動量を増やし競争力を高めて行きそうです。

身体の運動では、コロナの影響もありインドではゴルフブームが起きる気配です。中間層以上を中心に、ゴルフはその解放感と一人のできる唯一のスポーツとして、大きな需要がありそうです。もし2036年のオリンピック開催国がインドに決まれば、ますますインド人の身体の運動量も増えるでしょう。

そしてお金の運動では、個人のお金がSIPという積立投資口座に流入しています。その投資対象のほとんどはインド株の投資信託で、口座数は1億を超えました。ついこの前まで銀行口座さえ無かったインドの個人が、SIP口座でインド株投信に長期投資をしています。これは大変賢いお金の運動ですね。

インドは経済に加えて、人々の頭も身体もお金も元気が出てくる時代に入っています。

<頭の運動>

+

<身体の運動>

+

<お金の運動>

